

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390100198		
法人名	社会福祉法人寿量会		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	熊本市奥古閑町4296-1		
自己評価作成日	平成21年12月7日	評価結果市町村受理日	平成22年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4390100198&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4390100198&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成21年12月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

○環境について・・・部屋の空間が広いので、今まで使い慣れた家具や思い出の物など持ち込んで生活ができる。また、部屋の間(廊下)にセミパブリックスペースを設け、数人の気が合う仲間で話をしたり、本を読んだり、音楽を聴いたり、自由に仲間や一人でゆっくりする生活が守られている。○地域交流について・・・近くに小学校があるため、暖かい時期は朝から学校に行く子供達に挨拶をして見送りをしている。顔なじみの子供達が気軽に遊びに来てくれたり、時には犬の散歩の手伝いをしてくれる関係ができています。また、自分達で作った野菜を母体の市場に出したりして地域と繋がりをしている。ホームでは月に1回地域の環境グループの方が集まり会議をする場所にもなっている。○生活について・・・近くに海がある。地域では環境を意識した生活をされている。そのため、地域の方と一緒に環境を考えた生活(生ゴミを堆肥にしたり、洗剤を使わずにEM液を使ったり)を送っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

愛犬のいる中庭を廻る形で、パブリックスペースと各々の部屋が配置されている。屋内のあちこちに花や季節感にあふれた装飾が施され、ゆったりとした雰囲気がある。「入居者が主役」そんな言葉がしっくりくる。重度化しても、出来る事を継続して支援していくことを大切に、野菜の栽培や、料理、掃除など、たとえ眼や耳だけの参加でも、何か役割を持ち暮らしていけるよう、職員の細かな心配りが窺われた。今年の敬老会では、家庭を切り盛りしていたころの得意料理を家族から聞き取り、入居者・職員で家族に御馳走するという企画で、家族の繋がりを更に深めるなど、まさに入居者本位の生活が応援されていた。また地元小学生との交流は、慰問されるのみでなく、子どもたちに昔の食べ物のことを話したり「あやとり」を教えたりと、社会との共生が入居者の生きがいに繋がっていると思われる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに時間にとらわれずに入居者と共に過ごすし、その人らしい暮らしが継続できるように支援することを目指しています。理念を家の中に掲示し、また、毎月1日には職員で確認をして理念にあったケアが出来るように心掛けています。	理念の“ゆっくり・じっくり・たっぷり”の文言は、ゆっくりしたペースで、たっぷりの楽しさを、じっくり味わえる利用者本位で自立支援を大切にしたケアの実現に活かされている。たとえ重度化しても、一人ひとりの入居者ができる範囲の中で力を発揮し生活することを支えるケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	暖かい季節は朝から通学する子供達に挨拶を交わたり、「いってらっしゃい」の声をかけたりする。また、ご近所から野菜を頂いたり、作った野菜をおすそ分けするなど自然に地域の方とおつき合いをしている。	近隣から頂き物をしたり、ホームで採れた野菜のおすそ分けをしたりと、古き良き習慣が続いた近所付き合いができています。利用者と職員と一緒に季節のあいさつに回る等、近隣への配慮も行き届き、地域に溶け込む努力がはらわれている。小学生と郷土料理を作ったの交流や、ホーム周辺の環境整備等で地元へ貢献し、地域の祭りにも、積極的に参加し、地元へ溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の方と一緒に地域のお祭りに出掛けたりする。地域の方から自然と介助を手伝ってもらえる関係は出来ているが、認知症の人の理解や支援方法など地域に向けての活動も考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の普段の様子や外出・病気・事故など資料にまとめて生活の様子を報告している。委員の皆様からは地域の情報(いきいきサロンや催し物・美味しいお店など)の情報を頂き地域に出掛けている。懐かしい方と会ったり、食事を楽しんだりケアの中に取り組んでいる。	運営推進会議では、入居者の暮らしぶりや行事のほか、職員の活動内容等を報告し、運営の透明性を確保している。委員からは、地元高齢者向けの“いきいきサロン”の開催等の情報を得て、入居者の地域参加に繋げる等、会議の有効活用がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	熊本市南4・5圏域事業所連絡会参加して地域の他の事業所の方と現状や取り組みについて意見交換をしたりした。今後も会議に参加することで事業所同士の連携を深めたい。	熊本市高齢介護福祉課から相談員を受入れ、入居者の思いを市町村とホームで共有している。また市職員の見学を積極的に受け入れ、共に地域密着サービスの実現に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、身体拘束の内容の理解を深めた。夜間の戸締り以外が玄関もオープンにし、身体拘束をしない付き添うケアに取り組んでいる。	毎年、身体拘束についての勉強会を行ない、意識向上に役立てている。一人ひとりの思いを叶えることを大切にした介護を実践しており、買い物したいときは買い物に、散歩したいときは散歩に付き添い、外出したいという気持ちを大切にした拘束をしないケアの実践が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い考える機会を作った。特に普段使っている言葉について考え気をつけながらケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の入居者の方が利用されている。今まで成年後見人制度についての相談はなかった。職員間では制度について勉強会を行い内容の理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するときは理解や納得をして頂けるように説明をしている。また、面会時に不安や疑問点などないか尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の希望に関しては、その時に思いを叶えるようにしている。また、今まで苦情はあっていないが苦情申出窓口(苦情受付担当者や第三者委員)を設置し、苦情などを外部へ表せる体制を整えている。	毎月、入居者のホーム内外での生活を写真と手紙で家族に報告し、意見をもらう体制を整えている。また、家族面会時にはいつも「何かありましたら是非お伝え下さい」と言葉をかけ、話し易い雰囲気作りに努めている。敬老の日の企画では、家族から感謝の手紙も寄せられ、次回への励みにもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と一緒に利用者のケアについて悩んだり、考えたりしている。日頃より声をかけをして職員の意見を聞くようにしている。また、話しにくい内容に関しては母体施設の役職者などに相談できるように協力を依頼している。	新採用職員に対しては先輩職員を一人ずつ担当につけ、相談やアドバイスが受けられる体制が作られ、即戦力として力を引き出し育成している。職員も行事内容の提案を行ったり、仕事に責任や裁量を付与され、積極的に運営に関わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にとって働きやすい職場作りを目指している。子供の病気で休みが続く場合でも他の職員でフォローして気兼ねなく休める環境。今の勤務体制に無理がないか確認したりしている。また、仕事のやりがいを確認したり、出来ていることに関してが仕事を認める声かけを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修で介護技術(移乗方法)を学んだり、グループホーム内で認知症や高齢者の身体について学んだりする機会を作っている。また、新人に関しては担当職員をつけてケアや色々な行事の起案など一緒に計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会は法人内の職員と一緒に色々々な状態や方法などを学ぶ機会がある。また、認知症介護研修などで同業者の方とケアの悩みや対応など話しをする機会は多い。グループホームの連絡会(勉強会)もあるがなかなか参加できていない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何回か会いに行ったり、来てもらって一緒にお茶をしたりしてなじみが出来るようにしている。また、担当のケアマネジャーと今まで利用されていたサービス事業所の方に本人の状態など情報を得て入居と一緒にケアが出来るように準備する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問したり来て頂いて実際に家の中を見て頂いたりしている。また、担当のケアマネジャーや関わりのあったサービス事業所より情報を得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けて直ぐに入居が難しいため、現在の様子やサービスの利用状況を確認しそれに応えた情報を提供をしたり、関連機関へつなぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に笑い楽しみ、悲しいことがあれば泣いたり、生活をする家族のような関係が築けている。また、食事を一緒に作ったり、片付けをしたり、地域の祭事を教えてもらったりと支えあう関係も出来ている。利用者同士も出来ないところを他の仲間が手助けする関係が自然と出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全て職員がしてしまうのではなく、家族にも役割(面会や受診)を持って頂いている。面会時には家族でゆっくり出来る環境(部屋にお茶を運んだり)を作り家族で過ごす時間を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人で新聞を取って読んだり、今まで利用していた美容室や店・病院など引き通うことで、人や場所との関係が途切れないようにしている。その場所で地域のなじみの方と会って楽しい時間を過ごしている。今後は重度になった入居者の方について支援を検討したい。	入居者の得意だったメニューを職員と一緒に作り、家族に馳走することで、家族との関係継続が図られ喜ばれている。また、馴染みのある美容室や病院を利用し、知人との関係も継続されている。更に、読みなれた新聞の購読や以前の住居を訪ねることで、従前の生活の継続が支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個々の生活を大事にしながら、1日2回、お茶の時間を設け、みんなでゆっくりする時間を作っている。仲間同士でお菓子の差し入れをしたり、お茶の後の片付けをしたりされる。また、歩行が不安定な方に「用心しなっせ」と自然と言葉を掛け合う関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1人の方が退居された。同法人の特養に入居。その後の生活場所への引継ぎを行い、生活に慣れるまで顔馴染みの職員が会いに行ったり、介護の相談に乗ったりした。また、退居されても心配なことがないか家族に尋ねたりして関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望「〇〇したい」の声に、希望はその時に叶えることを目標にしている。(お風呂に入りたい、買い物に行きたい等)。また、今までの生活や好きなことなど家族より情報を得て本人の気持ちに沿うように努めている。	朝食後、自室の炬燵で新聞を読む人、仮眠をとる人、洗濯物を干す人、日向ぼっこをする人等、一人ひとりが自分のペースで暮らせる支援が窺われた。希望を表すのが難しい人には、好みや習慣を把握し、思いや意向を叶える努力も見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今まで生活されていた場所(生活環境)を見たり、暮らし方を家族から聞いたりして情報を把握している。また、普段の会話の中に家の周りの様子や生活の様子を聞くことが出来る。情報を気づきノートに書いて職員で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないことでなく本人の「できること」を視点に考えケアプランに活かし、「できること」がいつまでも継続できるようにあせらずに本人のペースで生活の支援をしている。「気づきノート」も活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに家族の参加はないも面会時に意向の確認を行っている。徐々に入居者の状態は重度になってきている。その方の「できること」をケアプランに盛り込み、本人の力を活かした自立支援が出来るようなケアを目指している。	毎月ケアプラン経過に入居者の状況を記録し、モニタリングを実施することでプランと支援に相違がないか丁寧な確認が行われている。本人の「今出来ることをいつまでも」を基本に、出来ていることを活かし、自立支援を目指した介護計画とサービスの実践が見られた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記載している。普段の生活の様子が分かるように「できた」「できなかった」ではなく、困っている様子やその時の入居者の方の言動など様子が分かる記録をしている。「気づきノート」や「申し送り」で情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	県外からの家族の面会に宿泊して一緒に過ごされたり、家族に変わって受診のフォローやお通夜と一緒に参列したり、本人や家族のニーズに対し対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動が困難な入居者の方には地元の美容室に訪問を依頼してきれいにして頂いたり、花見や日帰り旅行など人手が必要なときは、付き添いや話し相手になって頂くボランティアさんの協力を得て暮らしを支援している。子供達の訪問もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞いている。入居前のかかりつけ医を継続。受診など家族で対応が困難な時は職員で受診を介助したり、入居前は家に往診されていた方はグループホームに往診がある。受診に関わったり往診などで医師との連携は図れている。	病院受診は家族介助を基本としているが、かかりつけ医に継続受診できるよう、家族の同行が困難な場合は職員が同行支援を行っている。また、以前から往診を依頼していた入居者にはホームへの往診も継続し、自宅と同様の対応を工夫している。精神科受診は、職員が同行して日頃の様子を説明し、専門性を活かした安心の対応が見られた。また急変時は隣接して母体法人のクリニックがあり心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルサインのチェックや水分・食事・排泄状況を観察している。ケアプランの中に普段と違う状態の観察を盛り込み、生活の中に気づきが出るようにしている。管理者が看護師で不在の時にも連絡が取れる体制、急変時でも対応出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院された方はおられなかった。入院された場合は、グループホームの生活の様子や健康状態など医療機関へ情報を提供する。入居者に対しては顔なじみの職員が食事時間に面会し食事面のフォローをしたり医師や家族と連携を図り退院後もスムーズに生活出来るようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	徐々に入居者の状態は重度化している。重度化や終末期に向けては家族と話し合いながら、家族や本人の希望を伺い希望に沿った対応を行う。看取りの希望については、かかりつけ医の連携や出来ること出来ない事の確認・説明。ケアについて全員で考え希望に沿うようにしたい。	看取り介護内容は医療連携加算の説明書に記載されているが、状態が重度化した際に、その都度家族と話し合いが行われている。ホームで対応できること、医療に委ねることについての丁寧な説明で、家族の不安払拭に努めている。急変時は隣接する母体法人運営のクリニックの支援があり、医療面の連携が家族や職員の安心にも繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者の身体の特徴などの勉強会は行った。緊急時の応急処置や対応については実践していない。今後は身に付くように訓練を計画する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害について何回か話し合い、夜間を想定して自己避難訓練を何回か行った。全員が身に付く状態ではなく、今後訓練の計画をする。	隣接する特養やケアハウスの訓練に職員を派遣し、知識を身につけることに熱心である。ホームでは、夜間の火災を想定し、一人の職員が利用者全員を屋外に誘導する所要時間を測定したり、ユニットタイプの特養の訓練を参考にすると等、災害に備えての意識の向上と訓練が実施されている。近隣住民への協力も依頼している。	消防署員を運営委員会に招待し、ホームの現状に対する認識を高めてもらうことも有効であると思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れずに、その方の世界をそのまま受け入れるような対応を心掛けています。排泄の失敗に対しても騒がずに個々の部屋のトイレで対応。また、入浴も1:1で関わりプライバシーの確保に努めています。	「自分でできることは継続して」という観点から、入居者の自立を尊重した関わり方が徹底され、入居者のプライドが守られた接遇ぶりである。排泄や食事の介助等の現場において、個人の力を引き出し、さりげなく介助する姿が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に対してはその時に叶えます。また、自分で希望をうまく伝えられない方に対しては、あせらず、じっくり利用者の動きや会話を傾聴しその方の思いを知ります。家族の方から情報を収集したり、おやつなど何種類か準備して選んで頂いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の準備を手伝う方・片付けを手伝う方・洗濯たたみを手伝う方・部屋でのんびりされる方と、できる限り一人ひとりのペースを守る支援を心掛けてます。催し物の際は職員のペースにならないように、日中の職員配置を多くするなど時間に余裕を持つことができるようになります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前から利用している美容室を利用することで本人の希望にあわせた髪型にしてくれます。また、洗面台に櫛やおしゃれ道具を準備して、自分でセットをしたり、きれいになった様子を鏡で確認します。おしゃれを出来る環境を整えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活の中で無理強いせずに利用者の気持ちを大事にしながら、一緒に献立を考えたり、調理や片付けを行っている。時には自分たちで作った野菜を使って調理した物や梅干し・漬物などテーブルに並べて楽しんでいる。	メインの料理は管理栄養士による献立が母体法人で一括調理され、栄養のバランスを配慮されている。その他に利用者の得意な団子汁等の汁物を作ったり、盛り付け等、協力して楽しみながら食事の支度が進んでいる。皆で作った梅干・沢庵や、菜園で収穫されたニガウリ、きゅうり、南瓜などが食卓を飾り、話題に事欠かない。家事が得意な入居者は率先し台所仕事を引き受け、活躍できる雰囲気作りができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士がバランスを考えた献立になっている。それ以外に汁物や好きなものを作っている。水分も種類を多くし、午前・午後とお茶の時間を設けている。摂取については一人ひとりの力を把握して個々に合わせた介助。量はチェック表で確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけする方・見守りの方・介助したり、個々の力に応じたケアを行った。口臭などなく食事の摂取も良好である。ケアの際に義歯状態も観察ができ、状態によっては訪問歯科のケアを受けながら口腔内のフォローを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状態によって一人で介助したり二人で介助したりと、個々の力に応じたケアや声かけをしている。記録は排泄が「あった」「なかった」だけでなく移動状況や殿部を刺激すると出やすいなど状況が分かるようにしている。オムツに頼らないトイレで気持ちよい排泄ができる支援をしている。	「排泄はトイレでするのがあたりまえ」の考え方で、それぞれの習慣やパターンを把握し、細やかな個別支援で排泄の自立に向け努力している。具体的な状態が分かるよう記録の書き方に工夫を凝らし、自力を引き出して活用する等、支える努力の継続が、オムツに頼らない快適な排泄支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤などを使用せずに水分の管理やヨーグルトを飲んでもらったり、果物やさつま芋を使ったおやつを工夫したりしている。また、入居者によっては便秘の際の身体の変化を理解して部屋まで歩いてもらうなど運動や腹圧がうまく掛けれる声かけや状態によっては摘便にて対応する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間を決めることなく本人の意向に沿うと共に、入浴表で状況を確認している。時には一日入浴デイとして朝からお風呂を楽しんだり、菖蒲や柚子で季節を感じたり、入浴剤で温泉気分を味わったりする。また、個々の力に応じてシャンプーや洗身を手伝うなどの入浴の支援を行っている。	1日おきの入浴を目安にしているが、希望があればいつでも夜9時までは入浴可能で、入居者の意向に沿った支援ができている。言葉かけも、その人に合った呼び方をするよう工夫されスムーズな入浴に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分の部屋で昼寝など休息が取れる方を見守ったり、自分で休息が出来ない方に関しては状態を観察してベッドで休息を促したりと個々の状態に応じたケアを行っている。また、気持ちよく眠れるように布団を干したり、季節に合った布団を準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用についてはファイルを作り職員に分かるようにしている。薬局より薬の袋に一つづつ名前が書いてあり、整理する際に日にちを書いて整理する。与薬前には名前を確認。袋を渡せば自分で飲む方、袋を開けて手渡しする方、個々の力に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・食事の準備・片付け・洗濯たたみなど、無理強いわず出来ることを見守っている。入居者の頑張りに職員は常に「ありがとう」の言葉を掛けて感謝している。また、お酒を自分で管理される方や生活の中に好きだったものを準備して興味を持って頂く支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩でお地蔵さんのお参りや周りの景色で季節を感じたりしている。また、買い物の希望がある時は、その時に思いを叶えている。また、地域の祭りや美容室に出かけたり、家族の希望を聞いて場所を調べたりして出かけられる支援をしている。	近所の「とれとれ市場」に買い物に出かけたり、お地蔵さん参りや、天気の良い日は隣接するケアハウスの庭で弁当を食べたり、昔住んでいた自宅周辺に行ってみたり、夏祭りに出かけたりと、その時その時の思いを大切に、希望に沿った外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には小遣いを自分で管理されている方もいる。自分で管理できない方でも買い物の際は、自分でお金の支払いをしてもらったりしてお金を使うことの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキを自分たちで買いに行き、暑中見舞いや年賀状を家族に書く支援をしている。また、電話に関しては掛けられることはないが家族からの電話をつないだり、家族から掛かった電話の内容を説明して家族の様子を伝えたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所のテーブルの周りは空間が広く取っており、入居者と一緒に台所に立っても混乱はしない。台所やリビングはカーテンや樹木などで不快な音や光がないように配慮。また、玄関や家の中のあちこちに季節を感じる花や飾りを入居者と一緒に飾り、季節を感じていただいている。	季節を感じさせる柄の「和手拭い」やカーペット、カレンダーボード、あちこちに飾られた花等、入居者に居心地良く過ごしてもらいたいという職員や運営者の気持ちが表れた生活空間になっている。全体的に潤いやゆとりが感じられ、落ち着いて寛げる工夫が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の間(廊下)にセミパブリックスペースが設けてあり、気の合う仲間同士で話したり、音楽を聴いたり出来る空間がある。少人数や一人でくつろぐことが出来るように本などを準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で使い慣れた家具や布団・思い出の物など生活用品を自由に持ち込んで頂き、その方らしい部屋作りを行っている。入居者の状態の変化に、その方に合ったベッドに変更したりして居心地よく過ごして頂けるように工夫している。	使い慣れた筆筒やドレッサー、炬燵、テレビ、冷蔵庫、カップボード、机など、それぞれの部屋が個性豊かで、その人に合わせた支援が窺われた。部屋で新聞を読んだり炬燵でゆっくりにしたり、実際に落ち着いて寛げる部屋作りが出来ていた。職員が自宅に行き、一緒に持ち込みの品物を選ぶ工夫もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の中に個々のトイレと洗面所を設置して場所が分かりやすいようになっている。部屋の入り口には布を貼って模様で自分の部屋と分かるように工夫をしている。		